

令和6年 多収穫米「ゆきん子舞」栽培暦

JA えちご中越(令和6年3月作成)

【品種の特徴】

- 出穂期、成熟期は「こしいぶき」よりも1～2日程度早い早生品種
- 葉身及び葉鞘の色は「ゆきの精」に似た淡緑色
- 草型は中間型、稈長、穂長及び穂数は「こしいぶき」並
- 耐倒伏性は強
- 穂発芽性は易
- いもち病ほ場抵抗性は、葉いもち、穂いもちともに中
- 玄米の外観品質は「こしいぶき」並
- 高温耐性が強く、高温下でも比較的品質が安定

【生育のめやす】

生育ステージ	葉数 (葉)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉色 (SPAD)
有効分げつ終止期(6月15日頃)	8.0～8.5	32～36	380～430	40～42
最高分げつ期 (6月25日頃)	9.5～9.9	51～55	590～610	41～43
幼穂形成期 (7月5日頃)	10.5～10.8	63～67	540～560	39～41
2回目穂肥時 (7月中旬頃)	11.8～12.2	78～82	440～460	38～40
出穂期 (7月末頃)	12.4～12.8	92～96	430	40

【収量及び品質】

目標収量	720kg/10a
穂数	430本/m ²
一穂粒数	83粒
m ² 当たり粒数	35,500粒
登熟歩合	90%
千粒重	22.5g
整粒歩合	75%以上

【生育ステージと管理のポイント】

月	4月					5月						6月						7月						8月						9月															
	半月		2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2																		
注意を要する 気象の特徴	← 気象変動大きい →											← 気温は上昇 →						← 一時低温 →						← 過高温(フェーン)・少雨 →																					
生育ステージ	播種					移植						分げつ前期						有効分げつ 終止期						最高 分げつ期						幼穂形成期						減数分裂期						出穂期		成熟期	

適量基肥	健苗育成	適期移植	適正水管理	診断と穂肥	病害虫防除	出穂期	登熟期	適期収穫	適正調製
<ul style="list-style-type: none"> ・基肥量は窒素成分7kg/10aをめやす ・大豆跡ほ場では無肥料又は極寡少でスタート ・肥料は安価な肥料を使用し低コスト栽培をめざす ・生育量が不足すると収量確保が難しいので、茎数確保に努める 	<ul style="list-style-type: none"> ・播種期は4月10日頃とし、育苗期間20日程度で育苗 ・葉いもち対策としてDr.オリゼフェルテラ粒剤等を緑化～移植当日までに散布 ・硬化を十分行い移植4～5日前に弁当肥を施用し、移植後の活着を早める 	<ul style="list-style-type: none"> ・移植は5月上旬 ・1株苗数3～4本 ・栽植株数(株/m²)は60株セット、大豆後ほ場では50株セット ・植付深は2～3cmを目標 ・疎植にすると茎数が確保しにくく穂数が不足しやすいので注意 	<ul style="list-style-type: none"> ・活着したら浅水管理で分げつの早期発生を促進 ・5月下旬に水更新・夜間落水(ワキ対策)で根の健全化 ・移植後30日をめどに溝切り・中干しを開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・穂肥は出穂前23日(幼穂形成期頃)と14日の2回に分ち ・1回の穂肥量は窒素成分で2～2.5kg/10a、合計4～5kg ・肥料は安価な尿素を使用し、1・2回目それぞれ4.5～5.5kg/10aづつ合計9～11kgをめやす ・特に、1回目の穂肥時期が遅れないよう注意 	<ul style="list-style-type: none"> ・いもち病・紋枯病の予防対策としてフジワンモンカット粒剤を出穂30～10日前頃に施用 ・カメムシ類の防除を徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ・最も水が必要な時期なので、適切な土壌水分を維持しながら飽水管理 ・フェーン予想時は事前に深水湛水を抑えるこまめな水管理 	<ul style="list-style-type: none"> ・最終かん水は出穂後25日以降とし、早期落水しない ・登熟中期の高温・乾燥にも注意し、適切な土壌水分の維持に努める 	<ul style="list-style-type: none"> ・収穫は積算温度は950～1,000℃をめやすとする ・黄化割合が85～90%になった頃が収穫適期 	<ul style="list-style-type: none"> ・適正乾燥で胴割れを防止する ・仕上げ水分は15%を目標 ・選別網目は1.85mm以上を使用する

■推奨農薬

区分	農薬名	使用回数制限等
種子消毒剤	温湯消毒+タフブロック 等	
初期害虫・いもち病の予防剤	Dr.オリゼフェルテラ粒剤 GPオリゼリディア箱粒剤 等	・いずれか1回
除草剤	カウンスルエナジー 1キロ粒剤・フロアブル・ジャンボ ウイニングラン 1キロ粒剤・フロアブル・ジャンボ 等	・いずれかの剤型1回 ・他剤の使用可 ・必要により初期剤・ヒエ・広葉等後期剤の使用可
いもち病・紋枯病予防剤	フジワンモンカット粒剤 等	・出穂30～10日前 ・他剤の使用可
カメムシ類防除剤	スタークル液剤10 スタークル粒剤・豆つぶ 等	・無人へり防除区 ・個人防除区

■推奨肥料

区分	肥料名	一般ほ場	大豆後ほ場
育苗	稚苗苗代配合	30g/箱x18箱1回	
田植前	クミアイ液肥2号	270g(18～23箱)	
追肥	べんとう肥	360g(18～23箱)	
土づくり	イセ有機(完熟発酵ケイフン)	0～75kg	
	牛ふん堆肥、豚ふん堆肥	0～500kg	
	①みつパワー②ようりんケイカル	①60～120kg	②120～160kg
	③ニューミスター④マルチサポ-tFe	③30kg	④40～60kg
	⑤農力アップ	⑤60kg～100kg	
基肥	高度化成オール14	40～50kg/10a	0～14kg/10a
穂肥	輸入尿素(グラニュー)	出穂23日前 4.5～5.5kg	出穂23日前 4.5kg
		出穂14日前 4.5～5.5kg	出穂14日前 4.5kg
		合計9～11kg/10a	合計9kg/10a

■注意事項

- ①「一般米の契約米」として扱われます。
- ②栽培管理における各作業や、肥料・農薬の使用日・使用量等は「栽培管理記録簿」に記帳し、指定された期日までに必ず提出して下さい。
- ③「栽培管理記録簿」とあわせて、種子の保証票や生産資材の購入伝票を保管して下さい。

お問い合わせは最寄りの営農センターへ

※農薬を使用する際は、必ず最新の使用登録を守ってください。(農薬確認 令和6年2月14日)

★他肥料の使用可。低地力ほ場は増肥や土づくり肥料の補完をお奨めします。

★コスト低減のため安価な農薬、肥料を有効的に使用しましょう！